

ヨーロッパ公共施設調査(ドイツ・フランス)報告

平成20年 2月15日

調査員 安孫子 辰雄
鈴木 武男
佐藤 芳之

1. 調査行程(平成20年 1月26日(土) ~ 2月2日(土))

- 26日: 成田空港 フランクフルト空港
ハイデルベルグ泊
- 27日: 标発(アウトバーン)がイリクゲンのコッパタル
高架橋視察 カールスルーエ市泊
- 28日: カールスルーエ市公式訪問(環境保護政策)
- 29日: 移動(シュツガルト空港 ドゴール空港)
パリ市内のトラムウェイ(地下鉄)視察
- 30日: パリ(TGV) レンヌ市(都市交通施策)
- 31日: モン・サン・ミッシェル(ケノン・ダム視察) パリ
1日: パリ市内(各自調査) ドゴール空港
2日: 成田空港着



2. 主な調査内容

1) コッパタル高架橋視察

- ・L=128m、W=30.5m
- ・最大橋脚高H 180m

2) カールスルーエ市(環境保護政策)

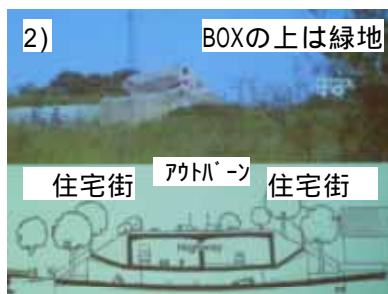
- ・条例で緑地率30%
- ・住宅街がアウトバーンで分断
BOXで遮音と緑地化

3) レンヌ市(都市交通)

- ・地下鉄設置22万都市では
世界最小
- ・地下鉄利用は駐車場無料
- ・最短1分半間隔運転
- ・10億ユーロ / 約9 km

4) モン・サン・ミッシェル

- ・海岸に砂が付いて往年の
風景は損なわれていること
から海洋環境を復元する
ための工事
- ・ケノン川にダムを建設し満
潮時に海水を溜、干潮時
に放流し砂を押し流す
- ・干満の差約15m
- ・約5億ユーロ



3. 感想

百聞は一見にしかずの言葉どおり、色々なことが新鮮で、スケールの大きさや歴史の重さを感じました。若いうちに参加することをお勧めします。